

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271200832		
法人名	社会福祉法人 八柱福祉会		
事業所名	新松戸グループホーム		
所在地	千葉県松戸市新松戸北1-3-3		
自己評価作成日	令和 5 年 4 月 7 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 5 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://bit.ly/3HQQs6b">https://bit.ly/3HQQs6b</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人人材パワーアップセンター
所在地	千葉県松戸市稔台一丁目25番地6
訪問調査日	令和 5 年 4 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の尊厳とこだわりを尊重した生活支援や利用者の意向を踏まえたサービスに組織的に取り組んでいます。ホームの理念では「その人らしさ」を支援すべく傾聴を重ね、楽しみを増やすことを重点としています。また、家庭的な雰囲気の中で最期を迎えていただくために、ターミナルケアの実施もしています。コロナ禍でも、窓越しの面会の実施やターミナルケアの方の面会は継続をしています。令和4年度は コロナ陽性者が1名出ましたが、それ以上の拡大はせず収束しました。職員を対象としたPCR検査や抗原検査の実施も令和2年度より継続して行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は3階建ての建物で、各フロアごとにリーダーを配置し、ユニットごとに職員は日常生活のなかで「その人らしさを大切に」とは何かを考え、利用者に寄り添った支援を実践しています。統括する施設リーダーは利用者家族からも高く評価され、率先して模範となる活動を行うことで所内の明るい生活環境を作り、全職員にも良い影響を与えています。立地する近隣には多くの桜の木を持つ大規模マンションが立ち並び、春の季節には職員の付き添いで散歩で花見を楽しむことが出来ます。また、鯉のぼりの季節には利用者が大きな鯉のぼりづくりを楽しんでいます。その他にも豆まきなど様々な季節ごとのイベントを企画し、利用者が生活を楽しめる工夫をしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ロビーや食堂に理念を掲げ、いつでも誰でも目に入るようにしています。日頃のサービスも理念に沿った支援ができるよう心がけています	理念は職員共有のため、目に付きやすい、ロビーや食堂に掲げています。理念である「その人らしさ」とその人に合わせた「自立」を念頭に職員は利用者寄り添い、支援活動につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様コロナ禍での外出頻度はかなり減っているが、少人数や個別でスーパーでの買物を実施した。	近隣の公園などへの散歩は実施し、近隣の保育園園児に声がけや手を振るなどして交流を図っています。町内会に加盟し、コロナ禍以前は町会避難訓練等に参加して地域交流を図っていました。馴染みの場所として、隣接するコンビニへの買い物を楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	車椅子の無料貸し出しの継続をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は対面での会議を予定していたが、コロナの感染拡大により年6回ともに会議は書面で行い、意見や質問を徴収し議事録を配布している	運営推進会議は年6回すべて、コロナ禍のため、書面で開催し、議事録を作成、配布しました。会議でアドバイスのあった転倒防止策として、ドアに鈴をつけるなどする事で安全対策につなげています。2023年度はコロナ禍の落ち着きもあり、対面での会議を再開する予定となっています。	今年度以降、対面での運営会議を行う事で、より有意義な意見交換が出来る、利用者満足度向上につながる事に期待しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて(書面や電話でのやり取り)市職員や包括支センターの職員、また他グループホームの職員の方と情報交換を行っている。	松戸市からは介護業者専用のホームページから随時情報を得ています。松戸市の生活支援課職員の訪問では生活保護利用者との面談を支援し、連携を取っています。その他、市の主催するZOOMによる各種研修への積極的な参加によって協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全上、玄関の施錠は行っているが拘束は行っていない。拘束を行わないためのケア方法を話し合い利用者の立場を考えた対応に取り組んでいる	玄関は大きな道路に面しているため、利用者安全確保のために施錠しています。徘徊傾向のある利用者へは拘束せず見守る配慮をしています。特定の利用者で勝手に他の利用者の部屋に入り込むことがあるため、安全を確保するためにその利用者以外の部屋を一時的に侵入防止のために施錠することがあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束委員会が中心となり見たり聞いたりした時には必ず報告することの義務があることを話している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は権利擁護の研修には参加できなかったが、前年度の研修記録はいつでも閲覧できるようになっている。現在は後見人制度は1家族が利用していて、申請中の方が1件。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が十分説明を行っている。質問に対しても十分、説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との関わりの中で、散歩や日常の会話の中から要望を引き出すようにしている。また、ご家族には電話での近況報告時や面会時などに要望、意向をお聞きしている	利用者家族から入所時利用者の飲酒の習慣を維持したいとの強い要望を受け一旦引き受けましたがまもなく、必要がないとわかり、停止しています。所内に以前は設置した利用者家族からの意見や要望の回収ボックスは利用がなかったために直接電話や面会時に近況報告と共に要望の聞き取りを行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員からの意見を聞き、話し合いを行い、反映している	運営に関しての職員からの意見は管理者が職員との日常会話や連絡ノートを活用して受けています。直近では職員からの要望を受けて、職員の働きやすい環境を整えるためとの判断から人事異動を実施しました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や労働時間などに配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修などすべての職員が受けられるよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市グループホーム協議会の研修に参加している。また、他GHの運営推進会議にお互いに参加をし交流を持っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛けを頻回に行い可能な限り要望に応えるようにしている。事前に面会や電話などで情報を得ている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在は電話等で要望を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のレベルに応じ他機関の情報も収集し必要に応じ紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別の対応に重点を置き実施している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	すべての家族ではないが、お互いの関係を築き協力しあっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話でのやり取り支援や窓越し、屋外での面会実施を行った。ターミナルケアの方は感染対策を行い居室面会の対応を取った	コロナ感染予防で所内への立ち入りを制限しているため、ホーム脇の駐輪場を利用し、馴染みの訪問者との関係維持を支援しています。ターミナルケアの利用者の場合は特別に家族との面談を所内で全日いつでも可能とする処置をとっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関われるようレクリエーションやおしゃべりの機会を設けている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居された方に関しては、相談支援に努める		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを汲み取り、やりたいことが出来るように場所や道具の提供などを行った	最近の例では利用者から掃除を自らしたいとの要望を受けて、掃除機やほうき、塵取りを貸し出しをしたり、読みたい雑誌などの提供を行っています。また、思いを伝えるのが困難な利用者からの希望や思いは表情や素振りからの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族から情報収集を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録の活用や申し送りを行い、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日常や心情などを個人記録に記載し、サービス担当者会議でサービス内容の検証と改善に向けて取り組んでいる	介護計画の作成は各階の計画作成担当者が担当しています。計画作成者は職員からの聞き取りや連絡ノートの内容を考慮して見直しを3か月を目途に行います。ただし、入退院や骨折事故等がある場合はその都度計画の見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録している個人ファイルは、どの職員が記録しても良いことになっていて、情報の共有ができています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズがあれば情報を提供している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナ禍のためボランティア受け入れなどやむを得ず中止している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人および家族が選択し、往診希望の場合は月2回の診察を行う。受診先が違う場合も家族の協力を得ながら、受診体制を整えている	利用者が、今までのかかりつけ医で受診できるように支援しています。阿部クリニックと連携し月2回の往診と必要に応じた緊急時の往診を利用しています。その他、在宅ケアのいはら診療所、やはら歯科、整形外科は新松戸中央総合病院などでの受診を支援しています。常勤看護師1名が日常的に利用者の健康管理を担っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師が在職し、相談等を適切に行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍のため電話でケースワーカーと情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期の対応指針を契約時に説明している。終末期ケアの要望などの確認を行って気持ちの変化や意向の変化にも対応している	重度化や終末期に向けた対応指針を契約時に本人・家族に説明し、同意書を得ています。ターミナルケアを望んでいない利用者が入退院を繰り返すうち、気持ちの変化が現れ、家族との同意を得て、終末期ケアに移行するなどの対応をしています。現在ターミナルケアを希望する1名の利用者を支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	蘇生法の訓練は現在コロナ禍のためスタッフのみで行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報、避難誘導、初期消火を消防署立ち合いのもと行った	令和4年度1回消防署立会いのもと、初期消火、通報、避難訓練を実施しています。利用者はほぼ全員一階、二階、三階それぞれの避難口まで職員の誘導で訓練を行いました。さらに職員のみ避難滑り台を使用する訓練も行いました。訓練実施報告書を作成し提出しています。	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重した言葉かけや対応を行っている。管理者が中心となり言葉遣いなどは注意することもある	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応を行っています。プライバシーに関する研修は特に行なっていません。管理者3人(1, 2, 3階のリーダー)が中心となり、職員に対しての言葉遣いを注意することがあります。例えば職員が利用者に話しかける際極端に大声だったり、利用者が転倒しそうな時にかける言葉が強かったりする場合に、管理者はさりげなく注意できるよう心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的には自己決定していただいているが、決定困難者には体調、気分を考慮し働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ意向を優先し、可能な限り要望に応えるよう支援しているが、十分とは言えない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を聞きできるだけ実現できるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはご本人の好きな物をリクエストしていただいている。また、おやつ作りなど参加型のレクリエーションなどを行い楽しんでいただいている	スタッフが調理配膳を行い、利用者は食後のテーブル拭きを順番に行なったり、使った食器やお盆を拭くなどしています。おやつ作りでは、例えばふかし芋を麺棒で潰すなどの作業に参加しています。誕生日にはろうそくを立てたり利用者本人の好きなものをリクエスト(例えばビールで乾杯)でき、食事が楽しみになるように配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じチェック表を作成し、把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い必要に応じ口腔ウェットティや専用スポンジ等を利用している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の残存機能に合わせて、排泄支援を行っている。また、できるだけトイレ誘導を行い、おむつ排泄ではなくトイレでの排泄を可能な限り行っている	利用者一人ひとりの残存機能や排泄パターンを、排泄チェック表にて管理し、個々への支援を行っています。布パンツやリハビリパンツにパットを使用し、できるだけトイレでの排泄ができるように声かけや、誘導・介助を行っています。2人の職員で対応する場合も多くあります。失禁した利用者にも、2人の職員が清拭し、交換してズボンを履き替える手順で支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やレクリエーションなどで体を動かす習慣の支援を行っている。また、ヨーグルトや乳酸菌飲料などの提供もしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、各フロアごとの対応。入浴の順番などは、利用者の希望を考慮し行っている。また、ゆず湯、菖蒲湯など季節感を楽しむ工夫をしている	3階建てグループホームの一箇所に大きな浴室があり、2つの浴槽と機械浴の設備があります。各フロアごとに週2回、利用者の希望を考慮しつつ入浴チェック表で管理し、職員2人で対応し、一人30分程度の入浴支援をしています。ゆず湯や菖蒲湯などの季節感を楽しむ工夫もしています。失敗例として、にがり湯を用意したところ、利用者の声(浴槽の下が見えない)で中止したことがあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた日中の休息を取り入れている。また、散歩や軽作業、制作など日中の活動にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が来訪し、配薬をしている。看護師が管理し、指示通りの服薬が来ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた軽作業などを行っている。また、誕生日などにはノンアルコールビールの提供も行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍のため外出支援の頻度はかなり減っているが、近隣の散歩などは継続して行っている	コロナ禍により一人ひとりの希望に沿った外出支援が減っていましたが、最近では近くのスーパーにお菓子を買に行ったり、家族の要望があり、美容室へ出かける利用者もいます。近くの公園やグループホーム周辺を 利用者の体調を気遣いながら、歩く人、車椅子の人、歩行器や杖を使う人、皆一緒に散歩する外出は、継続して行なっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者のみ実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方には支援する		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除は欠かさず行い、生活しやすいよう整理整頓を行っている。リビングには季節に応じた制作物などを飾っている	居間、食堂などの共用空間は、毎日職員が掃除機掛けを行い整理整頓を心がけています。居間の大きなテーブルでは、季節に応じた制作物を利用者皆さんで作し、壁面に飾っています。具体例は桜の花びらを(折り紙で折った物)貼ったり、鯉のぼり制作では模造紙に絵の具で色塗りをしたり鱗を貼るなどの作業を楽しんでいます。節分の日には、レクリエーションゲームで鬼の面を被り楽しんでいる利用者もいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中を利用し、くつろげるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものなど特に制限はなく自由に持ち込んでもらっている。写真や手紙など本人が安心できるように自由に壁に張ったり置いてもらっている	利用者本人が自宅で使い慣れたベッド、椅子、テレビや小物などを特に制限なく自由に持ち込んでいます。居室の壁には写真などを自由に飾ったりと一人ひとりの大切なものを尊重し、居心地よく過ごせるような工夫をしています。ペン習字の好きな利用者に紙とペンを用意したり、手紙を書く利用者をサポートしたりと利用者のやりたいことへの支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差には色付きのテープを貼り見分けがつくよう工夫している。トイレの場所が分かるようプレートを設置している		